

## 今月の記事

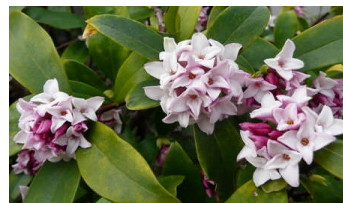
理想の施設

教員の社会体験

研修報告

リレーエッセイ

今月の愛の園



関西国際大学 准教授

山本秀樹 さん

## 「理想の施設」

2月22・23日に「施設における虐待防止」をテーマに関西国際大学准教授の山本秀樹さんによる研修が行われました。山本さんから「理想の施設」と題してメッセージをお寄せいただきましたのでご紹介いたします。

◇ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆

施設に求められる権利擁護の取り組みとは、利用者や家族、地域の人々、職員にとって「理想の施設」を創造していくことでしょう。しかし、この「理想の施設」は一朝一夕にはできるものではありません。もちろん所与のものとしてそこにあるわけでも、誰かがつくってくれるわけでもありません。施設に携わる職員が共通の目標に向かって、協働のもとに、意識的かつ積極的に取り組んでいくことによって初めて成し得るものです。その為には、職場の上司や同僚がお互いに信頼し、一人ひとりが成長できるよう、励まし支え合い続けることが必要になります。

過日の研修会では、立場や職種が異なる職員同士で「理想の施設」を語り、現実とのギャップから「課題」を発見していくワークを

施しました。短い時間でしたが、日々の業務の中で一人ひとりが思っていることや考えていることを、具体的な言葉として共有できる場をもったことは、大いに生産的であったと思

います。今時は、お互いに顔を合わせなくても会話ができる簡便なものがたくさんありますが、それだけでは不十分であることを職員の皆さんはよくご存知のことだと思います。今回の学びを起点として、「理想の施設」づくりに向けて、みなさんの力を合わせて具体的な取り組みをすすめていきましょう。



グループで理想の施設について話し合いました

見老津小学校 教諭

## 教員の長期社会体験を終えて 谷口弘直 さん

半年間にわたって、デイサービス、特養の機能訓練室と居室ユニットの3か所で研修をさせていただきました。利用者、入居者の皆さんと日々接する中で印象的だったことは、戦争を経験し、数々の困難や苦難を乗り越え、人生の先輩として歩いてこられた歳月の重みといったものを感じたことです。

ある方は、戦争中の兵役や勤労働員の苦労体験を、またある方は、奉仕先での辛苦や連れ合いを早くに亡くした悲しみを切々と語ら

れました。そしてある方は、童謡や歌謡曲を口ずさみながら、その時代を懐かしみ、在りし日の自分に思いを馳せているようでもありました。年を重ね生きるとは、こういう経験を積み重ねることなのかと、少しわかったような気がしました。

ところで、スタッフの皆さんは献身的で、気遣いや配慮が行き届き、状況を見ながら一人ひとりにてきぱきと機敏に対応されている様子がとても印象的でした。その姿を間近で拝見し、頭の下がる思いがしました。

この度の研修を通して得たことは多々ありますが、何より、仕事の苦労や悩み、課題等を自分なりに知ることが出来たこと、そしてその中には、教育現場が抱える問題と相通ずるようなものもあり、共感出来たことです。

入居者、利用者、職員の皆さんにはお世話になり、本当にありがとうございました。



谷口先生(左) お話し好きの Tさんとツーショット



愛の園の様々な場所にお雛様が飾られています



研修に参加しました

ユニットリーダー

## ユニットリーダー研修

田上美穂

2月中旬から大阪で開催されたユニットリーダー研修に参加しました。

前半は3日間の講義で、「ユニットケアって何？」と言う基礎の部分から学び、200名近い他の施設のいろんな職種の方々と出会い、グループワークで知り合った方とは食事も共にしながら交流も深めました。これからユニットケアを導入する施設や新設する施設など、それぞれの理念や考え方について意見交換をすることができました。

後半5日間の施設での実地研修は、7名の研修生がそれぞれのユニットへ別れて行なわれました。私が勉強させてもらったユニットはショートステイ1室を含む9室のユニットで、目にするものがとても新鮮で、そこで暮らす入居者やユニット職員が、皆さん楽しそうに生き生きとされていたのが印象的でした。

「今を大切に」という施設の理念に基づき、ユニット職員は元より、他部署の職員も同じ方向を向いて目指しており、ご家族もまた入居者一人ひとりの今を大切にされていることが目を見て心で触れて感じました。「5日間では学びきれない！」というのが正直な感想です。仲間となった研修生の方とは今後も連絡をとり合い情報交換をする予定で、来週にもさっそく大阪で会う計画を立てています。

愛の園でこの研修に参加したのは私で9人目です。これまで参加した職員と情報を共有し、「愛の園の理念」に添って同じ方向性で歩むことを目指して、今回の研修をゆっくりじっくりと伝えて行きたいと思います。

写真は、食事時に使用するお皿やお湯のみなどを入居者自身で製作したものです。施設内に大きな窯も設置してありました。



## リレーエッセイ(10) 「消えた故郷」

介護職員

岡本洋子

平成23年9月4日の早朝、私の生まれ育った家(田辺市熊野)は山津波に飲み込まれてしまいました。

山の斜面を利用して造った段々に並んだ田畑、アマゴを手掴みできる谷川、夜になると真っ暗でキラキラ光る星以外何もなく、聞こえるのはカエルの声と川の水の音だけ。そんなのどかな山の中に私の家があり、目を閉じたら浮かぶその風景があつという間に押しつぶされて消えてしまったのです。

当日、私は日勤で仕事をしており、上富田町の町内放送が、数日続いた雨で川が増水し危険なので避難するように呼びかけていました。岩田にいる姉が心配になり電話をかけると、姉が「お山の家が大変なことになってるらしいで…」と興奮していたのです。詳しくわからないけれど、とにかく何か良くないことが

あったらしいが、父母は今のところ無事であるとのことでした。その時は「裏山が少し崩れたのかな？」とそのくらいにししか思っていなかった。テレビで見たようなあんな大参事になっているとは、後でしかわからなかったのです。東北の津波の興奮もさめやらぬうちに身近であんなことがあるとは…。

半年くらいたった頃、父母と3人でお山に向いました。少しずつ整備されていましたが、えぐりとられた山肌を見た時はあまりのすさまじさに声が出ませんでした。残された家の屋根の上で何もかも無くなった自分の土地を見て涙を流した父の気持ちが分かった様な気がしました。亡くなった3人の隣人を思い、手を合わせました…。

次回は3ユニット田浦 望さんにバトンタッチです。よろしくお願いします。

## 編集者から

2010年度国勢調査の結果で、和歌山県の平均寿命は男性79.07歳、女性85.69歳と報告されました。一方、2012年の健康寿命に関する調査では、和歌山県は男性70.41歳、女性73.41歳とされています。

健康寿命とは「日常的に介護を必要としないで、自立した生活ができる生存期間」のことをいいます。計算では、男性で8.66年間で、女性で12.28年間で、日常生活に制限があり、治療や介護が必要な期間ということになります。

支援体制の質と量の充実とともに、平均寿命と健康寿命の差が小さくなるような、世代を超えた取組みが求められています。(A)

「キリストの愛を以って  
互いに仕える」

社会福祉法人神愛会  
特別養護老人ホーム愛の園

〒649-2103  
和歌山県西牟婁郡上富田町  
生馬 316-56

TEL (0739)47-1234

FAX (0739)47-4329

ainosono@shinai.or.jp

## 3~4月の愛の園

- 12(火) マリア会
- 14(木) やまびこ会
- 17(日) 日曜礼拝 おめかしクラブ
- 19(火) ひまわり会
- 21(木) やまびこ会
- 23(土) ピアノ演奏会
- 24(日) 日曜礼拝
- 26(火) マリア会
- 28(木) やまびこ会
- 30(土) イースターエッグ作り
- 31(日) 日曜礼拝(イースター)

- 2(火) マリア会
- 4(木) やまびこ会

ホームページもご覧ください。  
Web サイト アドレス:  
<http://shinai.or.jp>